

2025年の大雪は12月7日(日)です。

期間では、12月7日から冬至の前日である12月21日までです。

大雪(たいせつ)は、前の節気である「小雪(しょうせつ)」に変わって、雪が沢山降り始めるころのことを言います。山間部や北国では雪が積もり、寒さとともに本格的な冬がやってくる季節です。

12月の8日に行われる行事で「事八日(ことようか)」があります。

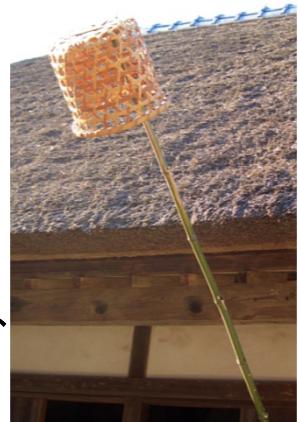
「事八日」は、正月を挟んで対となる12月8日と2月8日の総称で、八日節句(ようかせつ)や八日待(ようかまち)とも呼ばれます。地域によって「事始め(ことはじめ)」と「事納め(ことおさめ)」のどちらかの日とされています。



農耕の儀礼として「事始め(2月8日)」と「事納め(12月8日)」とする場合と、正月の儀礼として「事始め(12月8日)」と「事納め(2月8日)」とする場合があります。

この違いは、コトノカミが「年神様」か「田の神様」かという違いです。

この時に行う「事」が新年に迎える神様の事なのか、田畠を耕し農耕に勤しむ人の事かという違いで、日付けが逆転します。



【神様の事始めは12月8日、事納めは2月8日】

年を司る年神様を迎えるための神事を始めるのが12月8日の「事始め」で、すべてを終えるのが2月8日の「事納め」です。

こうして年神様に関する一連の神事を終えると、人々の日常が始まります。

家々笊目籠
(そうめかご)

【人の事始めは2月8日、事納めは12月8日】

田の神様を迎えて人の日常が始まるのが2月8日の「事始め」で、すべてを終えるのが12月8日の「事納め」です。

「事八日」は、一年の仕事の節目(事納め・事始め)とされ、この日に「針供養(はりくよう)」が行われます。「針供養」とは、折れたり、錆びたり、曲がったりして使えなくなった針を豆腐やこんにゃくなどに刺して供養する行事です。

「事八日」には、針供養の他にも風習がみられます。

無病息災を願って「お事汁」と呼ばれる具だくさんの汁物を食べたり、妖怪や一つ目小僧などの悪神が家を訪れるときのために、魔除けとして目籠をくくりつけた竹竿やニンニクなどを庭先に置いたりします。

身をつつしむために針仕事をしてはいけない、農作業をしてはならない、山に入ってはならないなどの言い伝えもあります。



いざ行でむ雪見にころぶ所まで 松尾芭蕉

さあ雪見の宴に出かけましょう。雪に足を取られてすってんころりんと転ぶかもしれないけど。心浮き立つ雪の宴への期待感を楽しく詠いあげた句で、雪景色を見に出かけよう、そして雪で滑って転ぶまで楽しもう、というわくわくする気持ちを詠んだ句で、『笈の小文』(おいのこぶみ)に収められています。